

芸北地域ビジョン

学びの郷 芸北構想

～「学び」を基軸とした、人づくり

人とのつながりづくり、地域づくり～

芸北の空

作詞・作曲 成木 香子

一、春は大地が息づく季節

眠りからさめて葉をゆらすはブナの森

日ざしまぶしく友を照らす夏

風は優しくそよぎ ゆれるささゆり

移りゆく季節を変わらず包みこむ空

きつとずっと忘れない

ここでめぐりあえたこと

いつまでも変わらないでいて

この芸北の空のように

二、

秋は鮮やかに色づく木々

まっ赤な夕日がほほをそめる雁り道

しーんと静まりかえる冬の日の

まっ白い雪のむこうで君がほえんだ

過ぎゆく季節を変わらず包みこむ空

きつとずっと忘れない

ここでめぐりあえたこと

いつまでも変わらないでいて

この芸北の空のように

高くどこまでも翔いてゆく僕らだけど

きつとずっと忘れない

ここでめぐりあえたこと

いつまでも変わらないでいて

この芸北の空のように

令和4年6月

芸北地域振興協議会

芸北地域ビジョン 学びの郷 芸北構想 の策定にあたって

芸北地域が直面している人口減少、少子高齢化、雇用の縮小などによる過疎化は、多くの地域が抱える共通の課題であり、学校の存続問題などにつながる社会全体の課題でもあります。

こうした状況の中にあって、「芸北の未来を語ろう」と題して芸北未来会議を開催し、中高生を含む多くの地域住民が参加しました。

芸北未来会議の中で芸北の将来の姿を考えたとき、多くのみなさんの「このままでは」という危機感、「いま何かしないと」という使命感、そして「芸北地域を守り育てていきたい」という地域愛を強く感じました。

こうした多くのみなさんの思いを踏まえ、芸北未来会議後の進め方について協議し、「芸北地域の未来像を明確にする柱」が必要であると考え、芸北地域ビジョンを策定することになりました。

策定にあたっては、住民参加による地域づくり活動を通じた芸北地域の将来像の共有化と合意形成が前提となります。

このために、まず“話し合いの場”から始めることが大切であるため、芸北地域に住む20代～40代を中心とした方や地域団体・学校関係者等による「芸北地域ビジョン2040策定委員会」を設置しました。そして20年後の芸北地域の将来像づくりに取り組み、策定委員会からの提案をもとに芸北地域振興協議会が「芸北地域ビジョン」を策定したものです。

この芸北地域ビジョンは、芸北地域のみなさんの想いで創りあげた手作りのビジョンです。これからの芸北地域が、この芸北地域ビジョンに基づいて取り組むためには、地域住民の力の結集が必要となります。このことは、多くの方の意志を高めるとともに周囲にも伝わり拡がっていきます。

この地域ビジョンを基に取り組むことで、「住んで良かったこれからもずっと住み続けたい」と思える地域に繋がると確信しています。

令和4年6月

芸北地域振興協議会

「芸北の空」のようにいつまでも変わらない芸北地域を創るために・・・



「芸北の空」を聴くことができます。

【 目 次 】

1. 芸北地域ビジョンの概要	3
(1) 策定の趣旨	
(2) 芸北地域の特性と背景	
(3) 役割	
(4) 策定までの取り組み	
(5) 策定の位置づけ	
2. 「学び」の定義	4
3. 芸北地域の現状	4
(1) 人口	
(2) 乳幼児	
(3) 小学校	
(4) 中学校	
(5) 高等学校	
(6) 「人づくり」への取り組み	
4. 芸北地域の課題	8
5. 地域づくりの理念	10
6. 基本的な取り組み方針	10
(1) 人づくり	
(2) 人とのつながりづくり	
(3) 地域づくり	
7. 具体的な取り組み(1)～(9)	10
8. これまでの取り組み例	12
9. その他	14
(1) 構想の推進	
(2) 推進体制	
(3) 構想の見直し	
10. あとがき	15
〈別紙〉	
芸北地域ビジョン2040策定委員会委員名簿	16

1. 芸北地域ビジョンの概要

(1) 策定の趣旨

20年後の芸北地域を「住んで良かった」「これからもずっと住み続けたい」と思えるまちとしていけるよう、地域住民自らが、地域の将来のまちづくりについて話し合い、将来の基本構想（目標）と、その実践を明確にする「地域まちづくり計画（地域ビジョン）」を掲げることが必要となります。

地域まちづくり計画（地域ビジョン）は、地域住民自らが、地域の課題や特性を共有し共通の目標をもって、連携協力していくために、地域の現状（特性、課題）を見つめ直し、「私たちがどのようにしていきたいのか」「そのために私たちが何ができるのか」を考え、地域の目指すべき将来像と、その実現に向けた取り組みを示したものです。

(2) 芸北地域の特性と背景

芸北地域の明るい未来を創るには、地域コミュニティ・健康福祉・自然生活環境・産業振興・観光交流・教育振興・定住促進など幅広い取り組みが必要です。

この度の芸北地域ビジョンの策定にあたっては、芸北地域の個性や特性など、あたり前に目を向け、芸北地域ならではの特性（強み）をより活かすことに、焦点を絞って策定します。

その特性（強み）とは

- ①芸北学園構想（園小中高 13年間一貫教育）による教育のまちとして学校・地域・行政が一体となって取り組んでいること
- ②広島県内唯一の高校の分校として、芸北分校の存在と地域連携が盛んなこと
- ③後世につなぎたい自然体験・伝統文化体験・スポーツなどがあること
- ④芸北未来会議での提案に教育（学び）に思いをもつ人が多いこと

などから、この特性を強みとして後世につなぐため「学び」に重点を置いた芸北地域ビジョンを策定するものです。

《芸北学園構想の基本的な考え方》

「…教育の現実と今日的諸課題の中でも、とりわけ基礎・基本の定着を図り、それらを様々な場面で実際に活かしていく力の育成、いわば『学力の実質化』を図ることは極めて緊急かつ重要なことであり、幼・小・中・高一貫した連携によってこれが実現されていくものと確信する。このためには各校教職員をはじめ関係者の、より一層の連携と研鑽、そして実践が期待される。…」

（芸北教育研究会のあゆみ第1号より）

(3) 役割

芸北地域ビジョンは、芸北地域振興協議会が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、関係団体、住民などで地域づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信し芸北地域出身者、都市住民など多様な方々の幅広い応援を得るために活用します。

(4) 策定までの取り組み

芸北地域振興協議会では、これからの芸北の明るい未来を創るにあたって、住民参加による地域づくり活動を通じた芸北地域の将来像の共有化と合意形成が前提となります。

このためには、まず“話し合いの場”づくりから始めることが大切であるため、芸北地域に住む20代~40代を中心とした方々や地域団体・学校関係者等による「芸北地域ビジョン2040策定委員会」を設置して、検討の場を設け定期的に話し合いをもち、芸北地域の将来像づくりに取り組みました。

芸北地域ビジョン2040策定委員会からの提案をもとに、芸北地域振興協議会が「芸北地域ビジョン」を策定しました。

また、計画策定にあたっては、住民の幅広い意見を聞くため、芸北未来会議を平成29年度から平成30年度の間において4回開催しました。

(5) 策定の位置づけ

芸北地域ビジョンは、地域と行政の協働によるまちづくりを推進するために、地域が行政と協力連携しながら、地域の意思としてつくりあげるものです。今後は、この芸北地域ビジョンをもとに、地域づくりをより一層推進していくこととなります。

なお、改定時期の到来や見直しが必要な際には、芸北地域ビジョンを基本として、それまでの取り組みを検証しながら改訂するものとします。

行政は、地域の目指すべき姿を尊重し、その実現に向けた地域の主体的取組を支援する役割を担います。

また、地域の目指すべき方向性を共有し、全町的な視点や町を取り巻く社会状況や国・県等の社会動向に勘案し、十分に意見交換を行ないながら地域との協働により取組を進めていきます。

2. 「学び」の定義

「学び」は、人を育て、人とのつながりをつくり、つながりによって地域をつくることとなります。学びには、地域住民の全てが生涯に渡って関ることであり、学校教育や生涯学習活動など、人の営みの全ての事柄を包含することです。

3. 芸北地域の現状

芸北地域では、少子高齢化による人口減少に歯止めがかからず、高齢者の割合が上昇を続けるなかで、地域コミュニティの維持が難しくなりつつある集落もあります。また、人口減少のなかで乳幼児や児童・生徒数も減少しており、学校等教育活動への影響も少なくありません。

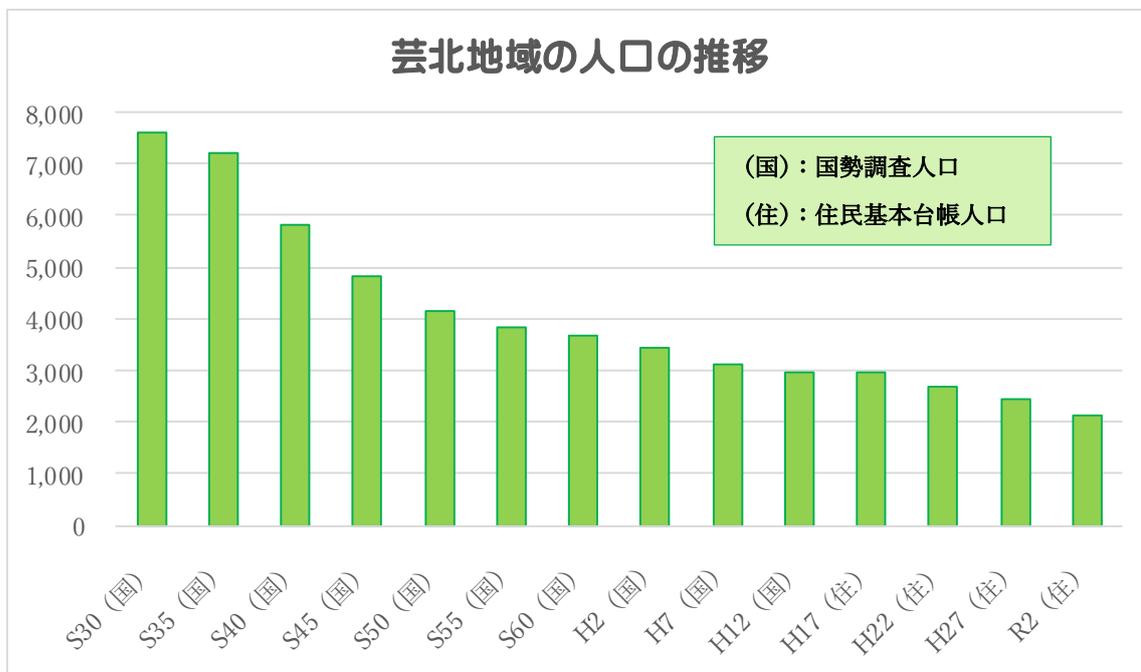
平成17年北広島町発足時には、芸北地域にあった8ヶ所のスキー場も現在では3ヶ所となりました。芸北地域を支えてきたスキー産業は、若者の遊びの多様化等によるスキー人口の減少や令和2年、令和3年と暖冬による雪不足の影響等からスキー場の廃業へとつながり、地域住民の冬期間における就業の場が失われることとなりました。

一方では、スキー場のグリーンシーズンへの取組や湖面を使ったアクティビティへの挑戦や景観探勝、登山、希少な動植物の観察など、芸北地域の豊かな自然

の中での活動を求め、一年を通して入り込み客が多くあります。

(1) 人口

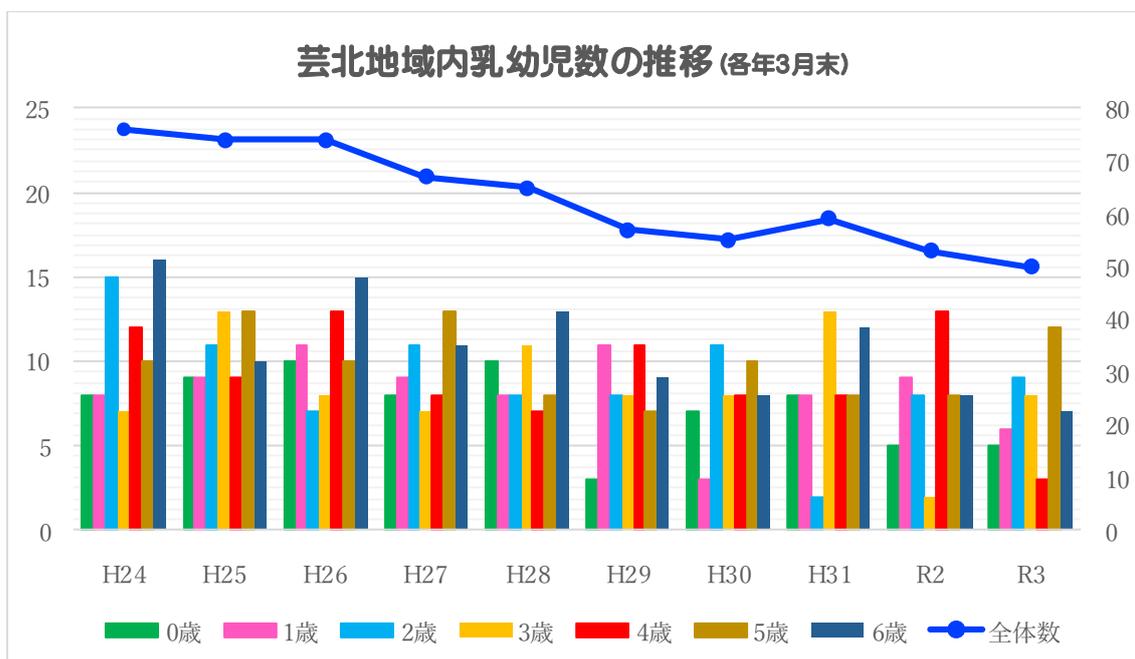
日本の人口が減少するなかで、芸北地域（旧芸北町）においても昭和30年には人口が7,602人（国勢調査人口）でしたが、以降減少傾向が続き令和3年1月末現在では2,061人（住民基本台帳人口）となっています。



(2) 乳幼児

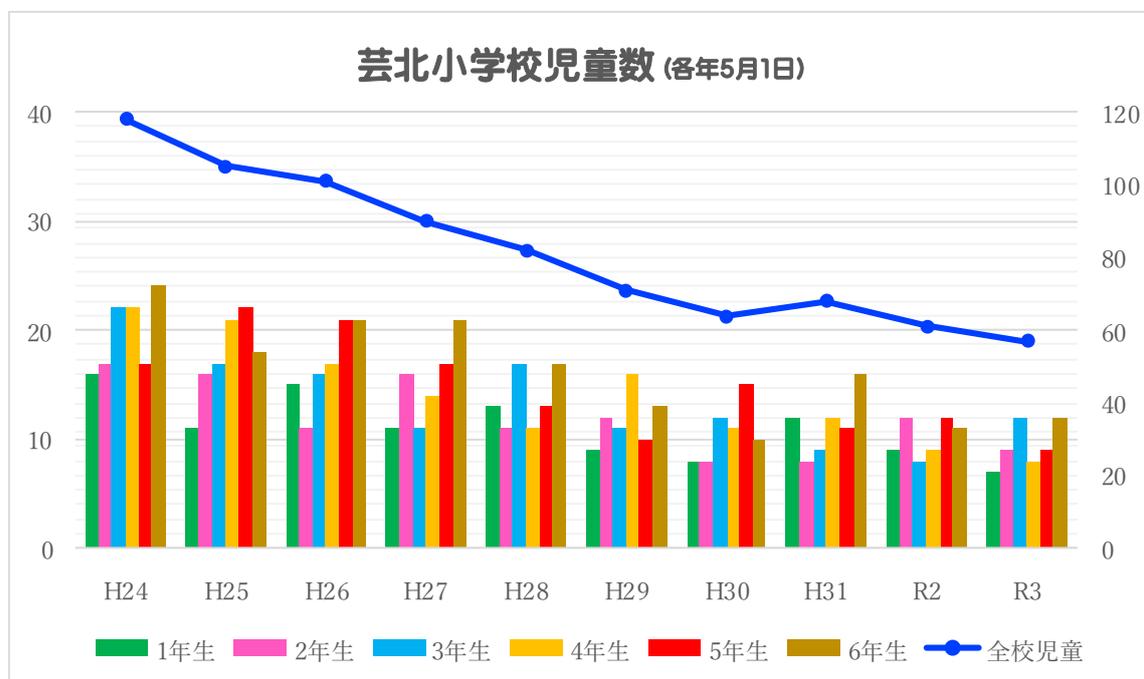
芸北地域の人口減に同調する形で、保育所・園の乳児や幼児、小学校及び中学校の生徒数も減少しています。

令和3年4月からは、町立保育園を閉園し民間のこども園に一本化されました。



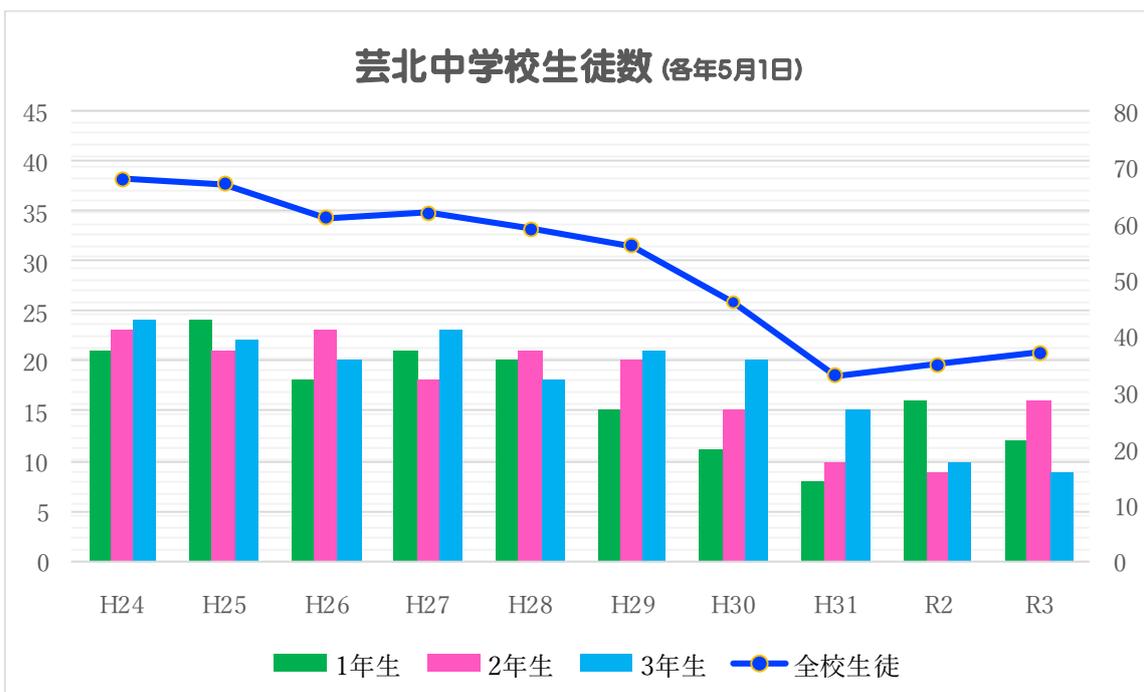
(3) 小学校

平成25年に八幡小学校、雄鹿原小学校、雲月小学校、芸北小学校、美和小学校の5校を統合し、新たに芸北小学校が新設されました。



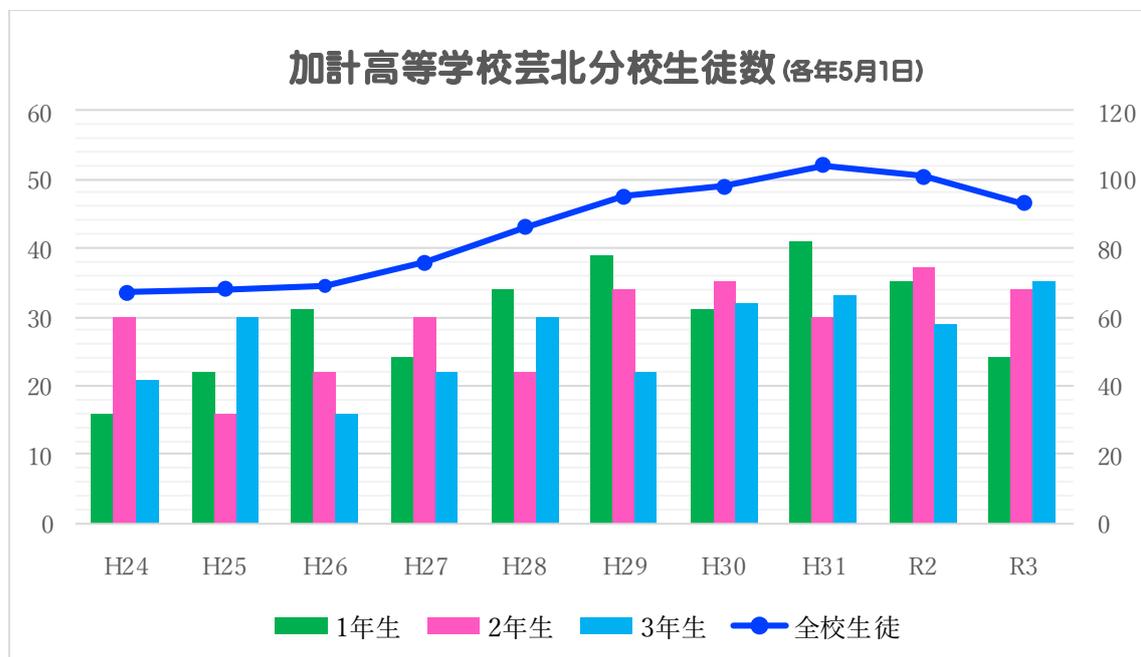
(4) 中学校

芸北中学校の生徒数は、1年生が12名、2年生が16名、3年生が9名（令和3年5月）で、団体競技の部活動ができなくなっています。



(5) 高等学校

芸北分校では、生徒数の減少から学校の廃止の危機にありましたが、学校の魅力化への取り組みや地域の支援によって生徒の下宿先を整備するなどし、安定した生徒数の確保ができるように取り組んでいます。



(6) 「人づくり」への取り組み

未来につなげることのできる持続可能な地域づくりの要は「人づくり」にあります。

これまでも芸北地域の資源を活かした豊かな「学び」を創出し、こどもの成長と心豊かな人づくりと地域への愛着心を育みながら未来を担う人材の育成に取り組んできました。

◆学校

中学生や高校生によるインターンシップへの取り組みを積極的に行い、芸北地域をフィールドに地域の方とふれあいながら就業観を養うとともに、地域課題の解決などに取り組んでいます。

また、高校生は中学校で、中学生は小学校において、教えと学びについて体験する「ふるさと／キャリア教育」により、自らを高める活動を実践しています。

◆地域

地域では、神楽など芸北特有の伝統文化の保存・伝承、山焼きやトレッキングガイド養成などによる自然景観の保全、湿原再生事業や薪活など各種団体等により独自の活動が行われています。また、地域住民は様々な体験活動を通じて、自然とともに生きる知恵や技術、自然観や道徳観などを伝える講師となることで、学校でのふるさと教育や全国の児童生徒等を受け入れる北広島町子ども農山村交流プロジェクトにも関わっています。

また、地域住民の中には、ことぶき大学への入学や学び塾へ参加をするなど、学びの機会を求めた個の活動も行われています。

こうしたことから、芸北地域内の各機関や事業所、個々で行われている業務や

活動等は、芸北地域を支えるとともに未来を担う人材を育成することに繋がっていると云えます。

◆芸北学園構想（芸北学園芸北小学校、芸北中学校、芸北分校）

芸北地域（旧芸北町）では、芸北学園構想に基づき園・小・中・高と13年間の一貫した連携教育に取り組んでいます。こども園、小学校・中学校・高等学校と、相互による合同行事や「ゼロ学期」への取り組みを行うなど、芸北地域特有の連携教育「芸北教育」の充実と発展を目指しています。

◆教育特性

芸北小学校では、「せどやま教室」や「火おこし」等への取り組み、芸北中学校では「茅プロジェクト」や「芸中マルシェ」、芸北分校では「学校の魅力化」「生徒の全国募集」への取り組みなど、特色ある学校教育を推進しています。

◆家庭と学校と地域を結ぶ

芸北地域では、「芸北地域の子どもは地域で育てる」との思いから、家庭と学校と地域を結び教育を地域全体で支えるため「教育の集い」を開催するなど、芸北教育の実践を行っています。

◆学校支援（あすなろプロジェクト）

芸北地域の最高学府である芸北分校を支援するため、芸北分校同窓会や後援会などと連携した、芸北地域の各種団体でつくる芸北分校あすなろプロジェクトを組織しています。

あすなろプロジェクトを中心に、生徒の下宿費用補助や下宿施設となる「雄ゆう学館がくかん」や「みなこ館」を地域住民により自主運営をすることで、生徒の就学環境の充実と支援に取り組んでいます。

4. 芸北地域の課題

◆児童・生徒数の減少

公立保育所の廃止、小学校の統合、中学校生徒数の減少、芸北分校の廃止の危機など、芸北地域の人口減少に伴って児童・生徒数も減少傾向にあります。（P5 グラフ：芸北地域の人口の推移 参照）

幼児保育では、新生児が一年間で5名程度であり、私立と公立保育園の2施設を運営していくことが困難な状況となり、令和3年4月からは公立保育園を廃止し、私立こども園に一本化することとなりました。（P5 グラフ：芸北地域内乳幼児数の推移 参照）

小学校では、5つの小学校を統合し芸北小学校を新設したことから、路線バスによる遠距離通学をする児童が多くなり、児童への新たな負担と体力の低下が心配されます。（P6 グラフ：芸北小学校児童数 参照）

中学校では、生徒数の減少から団体競技による部活動において、他の中学校と合同チームを編成し大会へオープン参加をするなど、以前のような活発な部活動ができにくくなっています。（P6 グラフ：芸北中学校生徒数 参照）

芸北分校では、広島県教育委員会（平成26年2月発表）が発表した「今後の県立高等学校のあり方に係る基本計画」により、在籍生徒数が80名を超えない場合は、募集停止の可能性があるとされました。

近年では、芸北分校や学校を支える地域の支援等により、町内外や県外からの入学があり生徒数も増加傾向にありますが、学校による魅力の発信及び学校を支える取り組みや支援を更に強める必要があります。（P7 グラフ：加計高等学校芸北分校生

徒数 参照)

◆学校が地域を支える

学校が魅力を高め輝くことで、それを支える地域も元気になります。学校と地域が連携しそれぞれが魅力化を図ることで、教育移住や定住、教育留学につなげる取り組みが必要です。

また、地域は児童・生徒と交流することで、大人では気づかなかったアイデアに出会うことで、新しい地域づくりのヒントとして捉えることが必要です。

◆地域が学校を支える

地域はもう一つの学校といえます。地域にあるものがもう一つの教材です。地域の人はもう一人の先生となります。

芸北地域ならではの伝統・生活文化や自然環境など、先輩が大切に守ってこられた宝物が沢山あります。地域はこの宝物を後世につなぐため、児童・生徒、若者に伝えるべく責任があります。

現在では、見ることが少なくなった芸北地域ならではの伝統文化や生活文化、遊びなど、芸北地域の大切な宝物であり魅力として、高齢者から聞き取るなどし記録に残すことも必要です。

◆芸北未来会議

これまで4回に渡り開催した芸北未来会議は、ワールドカフェの形式とするなど、地域内外からの出席を得ながら芸北地域の未来や夢について語り合いました。

会議では、芸北分校の生徒からの意見発表があるなど、年齢や老若男女問わない幅広いカフェとなりました。

会議で出された意見や思いから生まれたグループの支援を行うことや、芸北地域への熱い思いを芸北地域ビジョンへ反映させることが必要です。

◆教育の集い

昭和61年「家庭と学校と地域を結ぶ教育の集い」の発足当時と現在では、子ども達をとりまく家庭や学校、地域の状況も大きく変化しています。

現在の芸北教育が抱える課題や問題点等について研究を進め、これからの「教育の集い」に求められる新たな方向性を検討する時期にあると言えます。

◆情報発信

町内全域に於いてFTTH(光超高速通信網整備化事業)による高度情報網が整備されることに伴い、SNS等を利用し芸北地域オリジナルのポータルサイトを構築するなど、魅力を広く発信する必要があります。

芸北分校では、他校にない情報教育に取り組み、eスポーツ部の創設や生徒の制作による動画配信、芸分チャンネルの立ち上げなど、芸北分校の魅力を更に高める必要があります。

また、近年リモートワークへの需要が高まるなか、FTTHの整備により勤務先を離れてのリモートワークや旅行先でのワーケーションなどが容易となります。

芸北地域の豊かな自然環境の中で行なうことができるワーケーションなどには最適の地であるといえ、定住や移住へ繋げる取り組みも必要です。

◆移住・定住への取り組み

芸北地域の人口減少を鈍化する取り組みとして、移住者や定住者を確保しなければなりません。そのためには住宅の確保が重要な課題と言えます。

芸北地域には空き家が沢山ありますが、家屋の売却や賃貸を希望する家主が少ない状況にあります。

シェアハウスや全国の登録された空き家に定額で居住できるシステムを研究するなど、定住や移住のきっかけとなる取り組みを検討する必要があります。

また、空き家対策として芸北分校の生徒と協力して空き家の修繕を行ったり、大学とのコラボにより空き家の修繕を行なうことなども新たな取り組みとして検討する必要があります。

FTTHの整備により、芸北地域に住みながらIT関連事業の起業の可能性も広がり、移住や定住のきっかけとなり得ます。

5. 地域づくりの理念

理念を「**学び**」が**つくる持続可能な芸北地域**とし、芸北地域全体が学び舎であり、地域のみんなで学び合います。

地域づくりの理念は、「学び」を基軸とした人づくりによって、人とのつながりを深め、地域づくりへと発展させる取り組みを実践するとともに未来へつなぐことです。（対象者：全住民及び芸北地域へ関心興味のある方など全て）

6. 基本的な取り組み方針

(1) 人づくり

芸北地域が有する特性（強み）を活かしながら、地域の将来を担う「人づくり」に取り組みます。

(2) 人とのつながりづくり

地域住民は、児童・生徒・地域外の人などとの交流により学び合い「人とのつながりづくり」に取り組みます。

(3) 地域づくり

「住んで良かった」「これからもずっと住み続けたい」と言える「地域づくり」に取り組みます。

7. 具体的な取り組み

(1) 芸北地域振興協議会では、「芸北地域ビジョン 学びの郷 芸北構想」を基底に、芸北地域の企業、団体等で行われる事業や取り組みは、全てがまちづくりへつながるとの思いに立って取り組みます。

また「芸北未来会議」では、中学生・高校生・一般と幅広い年齢層の参加により、地域づくりに係る課題解決に向け、自由な意見交換を行うと共に新たな出会いの場も創出します。

(2) 学校教育機関では、芸北教育（芸北学園構想）に関わって、これまで行われてきた様々な取り組みを引き続き進めながら、地域との連携協力によって「学び」のきっかけづくりと「学び」の場づくりに取り組みます。

(3) 芸北分校では、学校の魅力化に取り組むなかで未来留学への参加や生徒の全国募集を行うなど、生徒数の安定確保に力を注ぐとともに、地域に愛され地域に大切にされる学校を目指します。

(4) 芸北文化ホール（芸北地域づくりセンター）では、ことぶき大学やサークル活動、各種講演会等の開催を支援し、住民の文化・芸術等の取り組みを通して「学び」につなげます。また、児童の学習会や生徒の発表会支援、図書館機能の充実に努め、幅広い年齢層に対応した住民の「学び」のきっかけと場づくりを行います。

(5) 芸北 高原の自然館（北広島町教育委員会）では、西中国山地の自然フィールドの中心地として、多様で希少な動植物の保存や紹介などを行い、地域内外の方への道しるべとなる機能を果たしながら、住民と地域外から訪れる方との交流と「学び」の場を創出します。

(6) NPO 法人西中国山地自然史研究会では、芸北 高原の自然館を拠点として「地域と自然の輝きを未来へ」を理念とし、専門家による観察会や調査、生態系や景観の保全を目的とする里山や草原の保全活動通じて「学び」の場づくりを行っています。

また、地域の自然環境を保全するには地域の人の力が必要です。学校、行政、各団体とつながり、活動を支援することで地域づくりを促進します。

(7) 一般社団法人 芸北道場では、芸北運動公園の施設や芸北地域特有の自然条件を活かしたスポーツ活動の推進に取り組み、全年齢を対象にスポーツの楽しみと喜び、健康づくりへの意識の醸成を図るとともに「学び」の場を提供します。

(8) 地域内各事業所では、日々行われる事業や取り組みのほとんどが、児童・生徒や住民の「学び」につながっていることを認識し、その事業や取り組みに学びそして未来につなげるべき事柄として住民意識の醸成を図ります。

また、児童・生徒に日々の事業を体験させたり事業内容を紹介することで、地域内事業所への就業の動機付けとなる機会を設け、定住者の確保と拡大につなげます。

(9) 地域では、芸北学園や北広島町子ども農山村交流プロジェクトの取り組みに関わり合いながら、新たな「学び」に触れるとともに、今に伝わる文化や伝統、昔ながらの生活の知恵と工夫、今では忘れ去られた遊びなどを児童、生徒に伝えることで、芸北の強みを後世につなぐことに取り組みます。

また、男子学生の下宿先「雄学館」や女子学生の下宿先「みなこ館」を整備・運営し、芸北分校の取り組みを強くサポートをしていきます。

芸北地域内の児童・生徒が芸北分校への進学を望み、芸北地域外から芸北分校へ入学を希望するような魅力ある学校になるとともに、それを地域全体で支援し、将来的には「芸北に残りたい」「芸北に帰ってきたい」「芸北に移住したい」「ふるさと芸北を応援したい」と思えるような取り組みを行います。

「学び」のきっかけと場づくりが行うことができる場所や施設、団体等として次のことがあげられます。

学びにつながる芸北地域内の施設・団体等

区 分	行政機関等	教育施設	文化施設等
施設名等	芸北支所、八幡出張所 美和出張所	さつきヶ丘こども園、芸北小学校、芸北中学校、芸北分校、雄学館、みなこ館	芸北文化ホール（地域づくりセンター）、芸北 高原の自然館、芸北民俗博物館、清水庵、大暮製鉄所跡、各地域集会所等
区 分	体育施設等	交流施設等	レジャー施設等
施設名等	芸北運動公園、芸北ゲートボール場、雄鹿原ふれあい広場、奥原グラウンドゴルフ場、美和中央農村広場、各地域多目的広場等	かりお茶屋、芸北オークガーデン、おおぐれ交流施設 清流の家、美和東文化センター	やわたハイランド 191リゾートスキー場、芸北高原大佐スキー場、ユートピアサイオトスキー場、大暮養魚場
区 分	自 然	事業所等	そ の 他
施設名等	掛頭山、雲月山、阿佐山、滝山川、大暮川、八幡湿原、聖湖、仙水湖	北広島町観光協会、北広島町社会福祉協議会、福祉関係施設、広島市農協、太田川森林組合、せどやま、アンデルセン100年農場、農業法人、観光農園	芸北地域振興協議会、NPO 法人西中国山地自然史研究会、神楽団、日本舞踊、老人クラブ

8. これまでの取り組み例

(1) 「学び」のきっかけと場づくりから
<ul style="list-style-type: none"> ①住民の主催による未来会議の開催（芸北地域振興協議会） ②各種団体、サークル等の育成と活動支援（芸北文化ホール） ③芸北地域の自然等を地域内外へ情報発信（芸北 高原の自然館） ④住民の健康・体力づくり機会の提供（芸北道場） ⑤伝統文化（技術）等の継承（神楽、餅つき、火の山踊り、田楽、遊び 他） ⑥子プロへの取り組み（農家、民宿、スキー場、養魚場、神楽団 他）
(2) 芸北分校を核にした新たな流れを創出
<ul style="list-style-type: none"> ①芸北分校の魅力化（未来留学、全国募集） ②インターンシップへの取り組み（芸北分校、各事業所） ③芸北分校の特産品開発（りんご、芸分米） ④地域との交流事業の開催（祭り、清掃等） ⑤キャリア朝礼等の実施（NPO） ⑥雄学館、みなこ館の地域運営（運営委員会） ⑦教育移住者への取り組み（町営住宅、空き家）

(3) まちづくりの取り組みを、全て学びにつなげる

- ①光回線を活用した情報発信と企業誘致（販わい、就労の場）
- ②空き家、お試し住宅などへの取り組み（定住、販わい）
- ③バイオマスエネルギー活用への取り組み（資源活用、就労の場）
- ④アクティビティ施設の開発と連携（観光、販わい）
- ⑤スキー場のグリーンシーズンへの取り組み（観光、販わい）
- ⑥オークガーデンの充実と魅力化（情報拠点、就労の場）

(4) 学びにつながる機関、団体、事業所

- ①ことぶき大学の開催（芸北文化ホール）
- ②家庭と学校と地域を結ぶ教育の集い（芸北文化ホール）
- ③自然観察会の開催（芸北 高原の自然館、NPO）
- ④スポーツ活動団体の誘致（芸北道場）
- ⑤自然再生エネルギーの利活用（芸北小、オークガーデン、せどやま会議、ほっこ芸北）
- ⑥茅プロへの取り組みと茅の利活用（芸北中）
- ⑦伝統技術・文化を学ぶ体験会の開催（小・中・高）
- ⑧伝統文化をつなげる聞き書き（NPO）
- ⑨あまごの発眼卵放流（地域振興協議会）
- ⑩パンづくり教室の開催（アンデルセン芸北 100 年農場）
- ⑪スキー場のグリーンシーズンへの取り組み（191、大佐、サイオト）
- ⑫湖面を利用したレイクスportsの取り組み（観光、販わい）
- ⑬子プロや民泊による農林業体験（水稻、りんご、ぶどう、薪活）
- ⑭獣害とジビエへの取り組み（商品化、後継者育成）
- ⑮きたひろ 学び塾 With（北広島町）

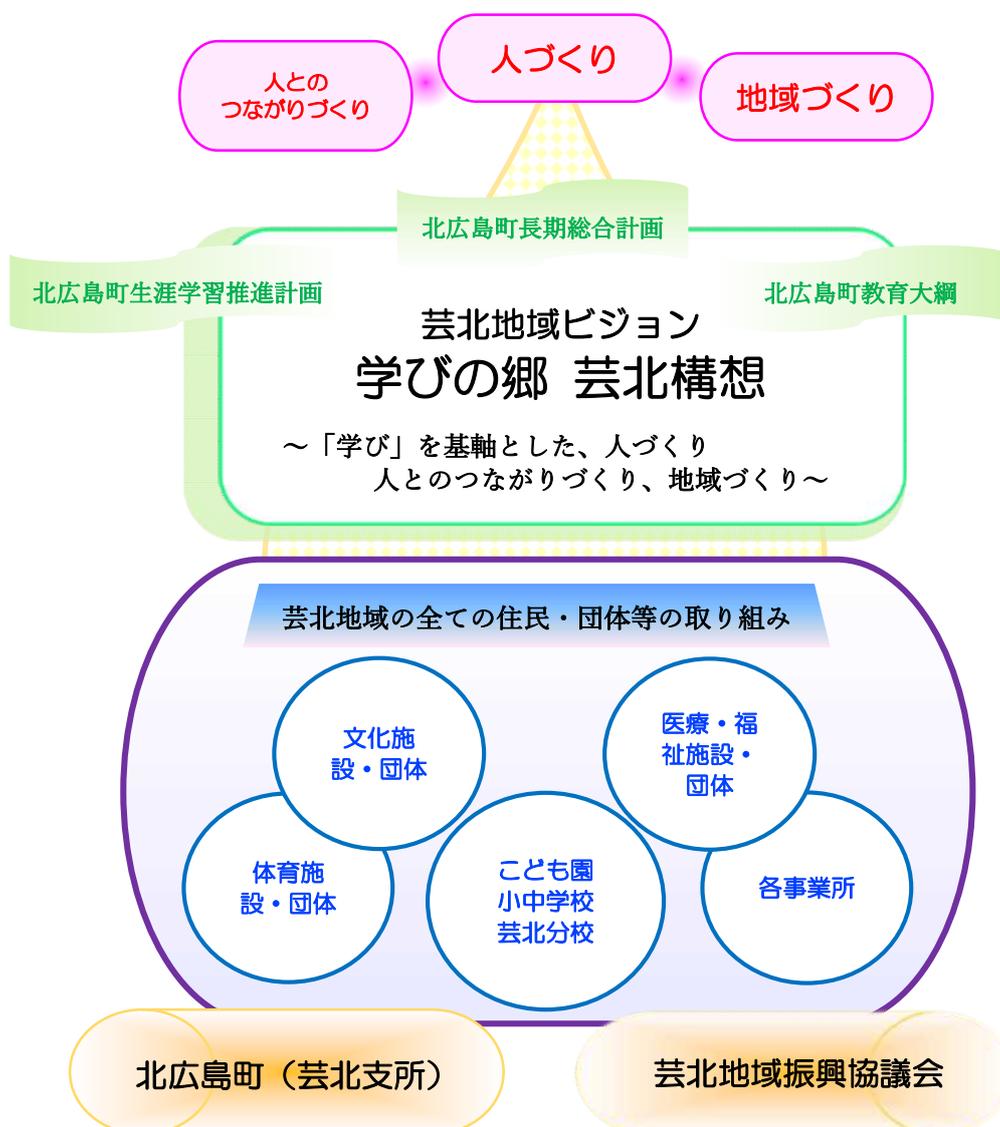
9. その他

(1) 構想の推進

「芸北地域ビジョン 学びの郷 芸北構想」は、芸北地域振興協議会が策定し芸北地域内外に周知します。また、この事務局は北広島町役場芸北支所地域づくり係が担います。

(2) 推進体制

「学びの郷 芸北構想」推進体制図



「学びの郷 芸北構想」の推進にあたっては、学校教育機関及び社会教育機関並びに医療・保健・福祉機関、体育施設、地域内各事業所等において取り組むこととします。それぞれが行う事業等の全てが「学び」を支えるための根幹となるものであり「人づくり」「人とのつながりづくり」「地域づくり」へと未来につながるものです。

(3) 構想の見直し

「学びの郷 芸北構想」に見直しの必要が生じた場合は、それまでの取り組み等を検証し芸北地域振興協議会において協議のうえ見直しを行います。

なお、見直しを行なった場合は、その内容等について芸北地域内外に周知します。

10. あとがき

芸北地域の将来像を語る第1回目の「芸北未来会議」が開催されてから4年の歳月を経て、今後20年間のまちづくりの指針となる芸北地域ビジョンが完成をみました。

策定委員会を立ち上げたものの、新型コロナウイルスの影響により思うように会議を開催することができず、当初の計画から1年あまり遅い完成となりました。委員の皆さまには長期間にわたりご協力をいただき、誠にありがとうございました。

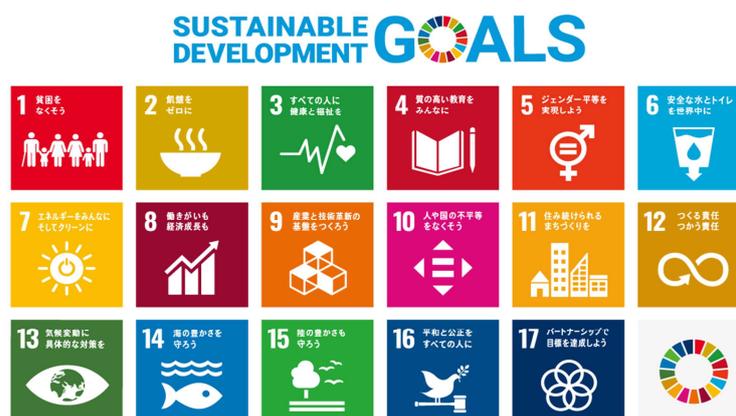
本ビジョンは「住んで良かった」「これからもずっと住み続けたい」と思える芸北地域を目指して、芸北地域の特性の一つである「学び」を基軸に策定を行いました。

策定の過程で、改めて芸北地域には他地域にない「学び」に対する取り組みが行われていることが再認識できました。しかしながら、それらの取り組みのほとんどが個々に完結し、広がりや他の取り組みとの繋がりを見ずに終わっていたように感じます。この度の芸北地域ビジョンにおいてこれらを整理することにより、より新たな広がりや繋がりが見えてくると思います。

「まちづくりは人づくり」と言われます。「人づくり」「まちづくり」は長い時間を必要とし、長い道のりとなるでしょう。

芸北地域振興協議会では、本ビジョンがその長い道のりの道しるべとなり、将来、芸北の特性を活かして育んだ人たちが、より芸北の特性を活かせる人材（住民）となって、「住んで良かった」「これからもずっと住み続けたい」と思える芸北地域を創造することに取り組んでいきます。

◆芸北地域振興協議会
は、持続可能な地域づくりに取り組みます。◆



芸北地域ビジョン2040策定委員会委員名簿

No	団 体 名	氏 名
1	芸北道場	片桐 義洋
2	芸北道場	深井 高子
3	芸北道場	岡田 晃明
4	芸北道場	宗美 亜希
5	西中国山地自然史研究会	河野 弥生
6	アンデルセン芸北 100 年農場	亀岡 大介
7	一 般	浄謙 恵照
8	一 般	林谷 高志
9	一 般	向田 拓夫
10	芸北分校同窓会・後援会	奥田 淳治
11	芸北分校同窓会・後援会	藤澤 健次
12	芸北小学校	深井 美紀
13	芸北中学校	河野 通之
14	加計高等学校芸北分校	久保 陵二
15	加計高等学校芸北分校	森 大悟
16	芸北 高原の自然館	白川 勝信
17	アドバイザー	清見 宣正
	芸北支所	槇原ナギサ
	芸北支所	村竹 明治
	芸北支所	山田 歩